

ゾウのカンタは、いつのまにか、ゆきの森にまよいこんでいました。

ゆきの上に、てぶくろがおちています。のぞくと、小さななおが三つならんでいました。

「だれ、てぶくろにすんでいるのは？」

「くいしんぼネズミとぴよんぴよんガエル。それから、はやあしウサギ。あなたは？」

「ゾウのカンタ。ぼくもいれてよ」

「どうぞ」

カンタははなをつかって、からだをいれようと思いました。が、大きすぎてなかなかはいりません。

「ちょっとむりじゃないですか」

それでも、おしりをねじこみ、足をいれ……どうにかこうにかはいりました。

「やっとはいれた。これはすてきおうちだね」

そこへ、おしゃれギツネと、はいいろオオカミがやってきました。

「わたしたちもいれておくれ」

「どうぞ」

これで五ひきになりました。

こんどはきばもちイノシシとのっそりクマがやってきました。

「だれだ、てぶくろにすんでいるのは？」

「くいしんぼネズミとぴよんぴよんガエルとはやあしウサギと、ゾウのカンタと、おしゃれギツネと、はいいろオオカミ。あなたは？」

「おれたちはきばもちイノシシと、のっそりクマだ。おれたちもいれてくれ」

「ちょっとむりじゃないですか」

「いや、どうしてもはいってみせる」

「それじゃ、どうぞ」

「つめて、つめて」

そこで、つめてつめて、てぶくろをぎゅうぎゅうひっばつて、きばもちイノシシとのっそりクマがはいりました。

「ううっ、くるしい！でも、あったかいよ」

みんながほっとしたときです。

ピリピリッと音がしたかとおもうと、てぶくろのぬい目がバリッとさけてしまいました。

「だから、むりだといったのに」

ゾウのカンタがつぶやくと、森のどうぶつたちがいっせいにいいかえしました。

「おまえが大きすぎるんだよ。だいいち、このはなしにはゾウは出てこないだぞ」

そういうと、みんなおこってどこかへいってしまいました。カンタはまた森の中でひとりぼっち。ふるえていると、フクロウじいさんがとんできました。